高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町中一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　藤安義雄

卒業式

第25回

はばたけ新しい人生へ

本日二月二十四日（土）、阿倍野高校第二十五回卒業式が、行なわれる。今年度は阿倍野高校創立五十周年ということで、いろいろな行事も盛大に行なわれた。この卒業式は、これらの最後のしめくくりともいえるであろう。これからも若さの特権を発揮して、大学に会社に、おおいに活躍していただきたい。

校長先生のことば

卒業生の皆さんご卒業おめでとう。心から皆さんのご卒業を祝福いたします。

皆さんが本校に入学してきた時は、大阪で「万国博」が開催されている年でした。諸君も何回かあの会場に出向いて、各国のパビリオンを見て回ったことだろうと思います。何もかもが新しいものばかりで、「人類の進歩と調和」というテーマに従って随分多くの知識も得られたし、また各国の人達にも接することができて、忘れ得ぬ思い出が今も走馬燈のようによみがえってくることと思います。

その後まる三カ年間、諸君が本校で勉学にいそしんでいる間に、世界の情勢もいろいろと変化してゆきました。

敗戦のどん底からはい上がり、見事にめざましい躍進をとげた日本が、世界の経済界に頭角をあらわした結果、ドルの暴落によって円の切り上げが行なわれ、今もって世界各国から異端視されるようになったことは、今後の日本が、自国の利益ばかりを考えていては世界協力のできないことを教えてくれたし、国民全体の悲願であった沖縄の本土復帰が、不充分な条件ながらとにかく実現したことは喜ばしいことであり、日華事変以来三十数年にわたって国交断絶の状態にあった中国との間に、国交回復が成立したことも特筆すべきことであり、そして今、卒業を目前にした正月、三十年に及ぶベトナム戦争に一応の終止符が打たれたことは、何としても喜ばしいことでありました。

諸君達の本校生活においても、いろいろの変化がありましたけれども、最終学年が意義ある創立五十周年を迎えたことも忘れ得ぬことであり、記念事業としての体育館兼講堂の建設工事が着工されたことも良き思い出となることだろうと思います。

さて私は諸君の卒業アルバムの扉のところへ今年は「至誠」の二文字を託してはなむけの言葉といたしました。人生五十年を少し上まわる時期まで生きて来た私にとって、ただ今痛切に感ぜられることがこの「至誠」ということです人と人との交際において、また、仕事を遂行してゆく途上において常に「まごころをこめて」つくすのふたをあけたとたんプーンと香心が如何に大切なことであるかということを知らされました。殊に今回の体育館の建設にあたっては非常に多くの人々のお世話になりましたし、また一部の方々には大変なご迷惑をかけることになり、各方面の方々より数多くの忠告や苦情をうけました。それらに対しましては、一つ一つ順次に解決してゆかなければならない困難さがありましたし、かつてのように、「公共の施設のためだから。」という一方的な言い分の通らない事情もあって、中には大変難行するものもありました。然し私は人の善意を信じ、一人一人にほんとに「まごころ」をこめて応対いたしました。この難問解決の途上につづくと「至誠」の二文字を肝に銘じたことでした。諸君も今後の長い人生において、いつの日か「まごころ」の通じあう人に出会うこともあろうかと思います。そして、また君達自身も「まごころ」が人に通じた喜びを味わう時が必ずあるものと思います。

中国の「中庸」という経典の中に「誠は天の道なり、これを誠にするは人の道なり」という句があります。また孟子も「至誠にして動ぜざる者は未だこれあらざるなり」と申しております。これからの長い人生の一つのいましめとしてくれぐれも身体に気をつけて下さい

卒業生に送ることば

六組担任　今中先生

卒業、おめでとう。これからは一人前の扱いで社会の人から迎えられます。そして多くの場合、はっきりと自分を主張できます。

私は鰻丼が好きで週に一度はお腹をへらして鰻屋に飛び込む。丼のふたをあけたとたんプーンと香るあいつがなんともいえない。この鰻君、大部分が養殖で丸々太って十分油ののったころ鰻屋で私の口に入る。

諸君は若い。うまい話にのらないで、自分を埋没することなしに若さにあふれたがむしゃらな力を身につけて下さい。諸君の正しい勇気ある決断に期待致します。

四組担任　上田先生

まずは卒業おめでとう。新任教師として赴任して以来君達とともに歩んだ三年間。いろんな思い出を残しつつも瞬くまに過ぎ去った一教師として充分な事ができなかった反省しきりだがともかくも精一杯やったという満足感もちょっぴり。君達も三年前に比べれば心身ともに随分成長したようだ。今後各々異なった道へと進む訳だが私からの希望を一つ。それは自分を偽らざる侮いなき人生であること。君達と語り合う時間が少なかったのは残念だが今後そんな機会の持てることを心から期待している。

七組担任　梅本先生

君達への願い

君達は明るい人生を歩んでほしい。そのためには、一人の力のみでは不足の場合二人以上が力を合わせなければならぬ。そのためには、真実を求め大切にする強い人間にならねばならぬ。そのためには自然や社会を客観的に科学的に把握できる能力を養わねばならぬ何が何でも君達は明るい人生を創り出さねばならぬ。そして物理の本当の修得認定は、人生の終りにもう一度自分でやってほしい。

八組担任　小林先生

早春の陽光の輝きにも似た今日ご卒業の門出を心から祝します。

答辞にもあったように「自主的なあり方」を願い続けながらも、教育を受身な形でうけとめていた三年間の学窓生活は、もう打ち過ぎました。引き続き進学の方々はただ大学の門をくぐるだけでなく情熱を燃し、自らの深求心をあふり立てて、一層邁進して下さい。直接社会に一歩を印する人々は学校という教育の場では自己中心的な考え方も許されたかも知れないが、さらに自分の力を連帯の上に働かせることに力点をおきかえねばならないでしょう。

いずれにしても、自分を厳しくみつめ、輝かしい前途に対しての人生計画をたてるときが来ました！

三組担任　西垣先生

卒業に際し、阿倍高三年間を美しい思い出のみに美化したり、何も得たものなしと全を清算したり目先きのこと、NOWなことのみで精一杯でいはしないだろうか。

そこからは、希望に満ちた未来は見通せないばかりか、未知の世界に進むのだという自覚も勇気も湧いて来はしません。

どんな些細なことでもよい、希望と勇気の湧いて来ることを今確認し、それを自信と勇気をもって次の社会に進む出発点として欲しい。

そして、次の社会で、より多くの人と手を結び、個々の知性を結集するならば、より豊かな創造と変革が出来ることを学び、実践して欲しい。

五組担任　村上先生

またや見む交野の御野の桜がり　花の雪散る春のあけぼの

何ときれいな情景ではありませんか。まだ明けきらぬ異様な平板さで眼前に広がる野に、光をもたない白っぽい桜の花びらが風に散っている。しかしこの作者俊成の心を捕えているのは、情景への感動より、出会いの感動でしょう。

皆さんは今まで教室で眼前に展開される真理・美への驚き、とりくみ見出す喜びから程遠いところに座っていませんでしたか。もう一歩を今日より踏み出して頂きたいと思います。

一組担任　福田先生

現代は激動の時代であると言われている。最近の社会の現象は激しく揺れ動き、将来も現在以上の社会変化が予想される。

この時代に生きるわれわれにはそれに正しく対処していく能力、心構えが必要である。しかし一部には現代の政治的、社会的、経済的ひずみから個人としての無力感におそわれ、将来に対する希望を失う人もある。

諸君はあらゆる面で可能性に満ち、前途は洋々たるものがある。人間として生をうけたことを喜び人間のすばらしい能力を確信し、自己を見失わず、努力を積み重ねて意義ある幸福な人生を送ってもらいたいと思う。

二組担任　浜先生

御卒業おめでとうございます。

諸君は人類がその文明に於て未曽有の発展を遂げ今後益々の繁栄かあるいは破壊かの岐路に立つ激動の機に世に出ようとしています。それ故、在学中に身につけたものを中心に今後益々研鑽を積み、深い洞察力と広い視野に立ち健全な判断力を有する積極的、行動的人間となり、社会に貢献し、正しい社会を形成して行く人間になることが諸君に託された任務だと思います。また、諸君には、十分それが出来るのだと言う自負と自覚を持ち、未来に向ってたくましい一歩を今日より踏み出して頂きたいと思います。

誰もが見て

これでこそ人間だと思ふ
一個の人間であります。
一個の人間は　一個の人間で
いいのではないか
一個の人間。

武者小路実篤

そのかわり

自分もいぢつにされない
一個の人間でありたい。
自分の最も深い泉から
最も新鮮な
生命の泉をくみとる
一個の人間でありたい。

一個の人間

自分は一個の人間でありたい
誰にも利用されない
誰にも頭をさげない
一個の人間でありたい。
他人を利用したり
他人をいぢつにしたりしない

部説

新しい世評を作ろう！

先日、われわれが街頭に出て阿倍高生の世評についてたずねてみた所「おとなしい」「規律正しい」「真面目」「女の子なら是非、行かしたい」「男子にバイタリティーがない」などの言葉が返って来た（30才～50才ぐらいの大人であった）このことについて考えてみると、全体的に阿倍高生は消極的だと言えるだろう。

しかし、世評による「おとなしい」と言う意味は、良い方にとられている。というのは、「学生運動などが起きた様子もないし、静かでおとなしくて、いいですねえ」ということ。確かにそういう見方もあるだろう。若者の特権とは行動力にあるのではないか。それが「バイタリティーがない」などという世評現にわれわれ自身の家族が一番それを願っているはずである。

しかし、ここで言いたいのは、われわれは若者であること。つまり次代をになう若い力が消極的といわれてよいだろうかに示されている通り、阿倍高生にかけているようだ。また「おとなしい」ということを悪い面から見れば、無気力・無行動に結びつけることもできるだろう

次に元女学校であるという伝統が今なお残っていること。「女の子なら是非……」という意見も結局、ここから来ている。男女共学になっても25年。それなのに何故いつまでも消え去らないのか。阿倍高には、女学校時代からの先生がいらっしゃる。その上校舎が建て直しなしの昔のまま。この古めかしい校舎の中で、「女の子の方がえらい……」などと言われると男子がやる気をなくし、女子が頼りなく感じるのは当然かもしれない。阿倍高出身の女子は、「お嫁さん」に望まれるとよく言われる。この元女学校ということについても、やはり世間では良い面だけしか受け取られていないようである。

最後に「真面目」という意見は他の学校に比べてだが、これが、「制服があって規律正しいから」という理由の人が多いそうだ。阿倍校内でも制服自由化運動が激しくならないのは、多くの阿倍高生がこれと同じような意見をもっているからだと思える。

以上世評より、いろいろと考えてみたが、多少食い違う点はあっても、一応世評は正しいのではないか。その多少の食い違いの中で、学生だからおとなしく勉強していればよいということより、一度しかないこの青春の時を阿倍高生として過ごす今何事にも積極的に取り組もう。そして新しい阿倍高生世評を聞けるようにしようではないか！

新聞部員募集

詳細は
新聞部部室まで

針の穴

三年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。針子はとってもとっても悲しいのです。これからは先輩方に毎日お会いしてお話することもできなくなってしまうんですね。でも今度会うのは、来年の二月頃なんてことにならないようにして下さいね。▼春休みが済めば、現一年生ははじめて先輩と呼ばれる感激を味わい、男子の場合は選択科目が新たに加わる、二年生は悩みに悩んだすえに選んだ「BI」「B2」「B3」の授業が不安と期待とが入り交った気持ではじまります。でもその前にある恐怖の学年末テスト。今までホザブトンの上で、ヌクヌクしていたけど、このテストに命をかけている人もいるんじゃないかしら？　判定会議のまな板の上にのるコイにはなりたくありませんものネ！　針子もがんばらなくっちゃ▼来年度入学する一年生、クラブは必修課目になるとか、そうなると、入部したくないのにしかたなくはいって来る人もでてくるんじゃないのかな？　そうなると、やる気のないクラブ員ができるっていうことにもなりかねないんでは……▼ところで十八年間続いたベトナム戦争が、やっと終わりましたね。針子が生まれた頃からずっと続いていたこの戦争―この戦争でお金もうけをした人もずい分いらっしゃるとか。そんな人達にとっては、悲しいことですね。（いい気味！）でもまだ事実上の「和平」ではないらしいですはやく本当の終戦になって欲しいものですね。▼この間とったアンケート結果では、針子の人気は最高だったので、とっても気げんがいいんですよ。今年度の新聞は、今号でおしまいです。この一年間愛読（？）して下さってありがとうございました。来年度も、針子ともどもこの阿倍高新聞をよろしくお願いします！

思い出してください……この三年間を

卒業生のみなさんおめでとうございます。思い出してくださいこの三年間を……。悲しいにつけ、うれしいにつけこの阿倍野高生としてすごされた日々を、そして一人の若者として悩んだり悲しんだ又、喜び遊び呆けた……。そんな日々のあったことを、この三年間を回想していただき、高校生活の中で得たものをできるだけはっきりとしたかたちで心に刻み込んで行ってもらいたいのです。又、在校生のみなさんは先輩の体験を答辞の形で載せました。そこから何かつかんで今後の生活の知恵としてもらいたいのです。

田子の浦のヘドロ・アラブゲリラ・三島由紀夫・樅の木は残った・ワリャ、オンドリャ・一株運動・ウーマンリブ・バンバク・ニャロメ

つらつらと並べましたるこのことば、なんだかわかりますか？

一九七〇年、先輩方が入学された年の流行語・新語・よく耳にしたことばなんですよ。だいたいわかると思うんですが、「ワリャ・オンドリャ」というのは、漫画家、谷岡ヤスジさんのあみだした流行語、同じ漫画家の赤塚不二夫さんの方は「ニャロメ」。

急にこんなことを持ちだして、驚かれたでしょうね。形式ばったあいさつや、かたっくるしいお祝いの言葉は、卒業式でいやというほどお聞きになったことでしょうですから、ここではなるべくリラックスなムードで、先輩方の門出をお祝いしたく思いまして、こうなったわけです。では改めまして御卒業おめでとうございます。と言っても今は、大学の門が目の前にチラチラしている人が多いのではないですか？しかたありませんね。（わかったようなことを言って……）でも一段落したら、ゆっくり高校時代を思い出してみて下さい。

時々問題になった制服―三年間着たら、かなりくたびれてるでしょうね。でも三年間の色々な思い出を先輩方一人一人と一緒に味わってきた制服です。ゴミ屋サンにか、（卒業生が元気な顔を見せてくれることだけが唯一の楽しみで教師をしている先生方もいらっしゃるそうですよ）食堂のおうどんの味をなつかしんで来るとか（おばちゃん達が待ってるってさ）、年下の初恋の彼女のことを「どうしてるのかな？」ってそっとのぞきにくるのもいいと思うんです。校内のしきいが高くならないように、今度お会いする時に「お久しぶりです」というあいさつをしなくてもすむようにお願いします。

時間があるんだけど、行くあてがない時、一人っきりで考えごとをしたい時、いやなことがあってムシャクシャした時、阿倍校の門をくぐっていただければどんなにうれしいことでしょう。我々はそんな時なんの役にもたてないでしょうけど、心のやすらぎの場となるようであればと思います。

あたたかすぎるほどのこの阿倍校。温室育ちのように言われる阿倍校生。その阿倍野高校から旅立たれる先輩方―我々は、先輩方の出発をお祝いする心を共に、自分達の未来への期待もかけているのです。

先輩方の歩まれた道を我々が歩む事になるのです。先輩方が何を感じ生きてこられたのか我々はその時にならなければわからないというのではおそすぎます。今から先輩の失敗を未然に知り、予期せぬ失敗とならぬように又、先輩の喜びをあらかじめ知っておくのも何かの時にやくに立つと思います。

どうか先輩方、お元気で阿倍野高校をいつまでも忘れないでください。

先輩方の御活躍を期待しております。

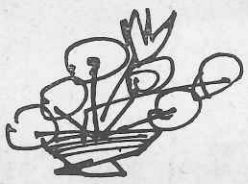
思い出の校内風景

インスピレーション

卒業という言葉　4
からでるインスピレーション―先日　3
みなさんに書いていただいたアンケート内容だが、その集計ができたのでお知らせします　3
一年生
映画「卒業」　11
サイモン&ガーファンクル　8
蛍の光　8
サウンド・オブ・サイレンス　7
出発　6
入試　6
希望　6
喜び　5
旅立ち　5
悲しみ　5
ダスティン・オフマン　5
涙　5
スカボロ・フェア　4
その他では、あおげば尊し、落第、さようなら、解散、終点、キャサリン・ロスなどがあった。
二年生
映画「卒業」　4
サイモン&ガーファンクル　4
涙　4
開放　4
さようなら　3
大学　3
キャサリン・ロス　3
ダスティン・ホフマン　3
思い出（想い出）　3
その他では、後悔、淋しさ、悲しさ、サウンド・オブ・サイレンス、アルバムなどがあった。
三年生
サイモン&ガーファンクル　9
ダスティン・ホフマン　5
サウンド・オブ・サイレンス　4
映画「卒業」　4
出発　4
門出　3
希望　3
入学　3
その他には、追試、不安、未来前進、人生への第一歩、別れ、さみしさ、うれしさ、涙、安心などがあった。

ここには記載できなかったが、悲観的なものも少なくはなかった

◇　◇　◇



答辞

新しくできる体育館の建設の槌音の中、私達はとうとう卒業の日を迎える事になりました。長くて短かかった三年間、毎日同じ道を行き帰りして、もう三年間も歩み続けたかと過ぎ去った日々が幻のように思えるこの頃です。

この年月のさまざまな思い出が今胸をよぎって行きます。

あれは一年の入って間もない頃でした。クラスの親睦を深めるために初めて夏期行事として久美浜へ行き、砂地を掘って飯合炊さんをしたり、せっせとマキを運んでは"修学旅行"を自分達で作り出していこうと旅行委員を中心に、コース自由時間の使い方キャンドル・サービスなどいろいろな事を決めました。その結果が信州への修学旅行となったのです。あの雲の切れ目からのぞいた穂高の雪化粧、逆コースの友と再会を喜びあい、フォークダンスをした白樺湖、そしてりんごのもぎたての新鮮な味はいつまでも忘れる事なく私達の胸の中に残っています。

そのような楽しい思い出をいだいて三年生となった私達に迫ってきたのが入試です。今までの授業は消極的、受動的なものもありましたが、きびしい現実にあたり、しだいに、積極的になり、放課後開かれた特別授業にも多数の者が参加しました。しかし、その積極性も多くは、受験にしばられたものでした。私達はそのような事にとらわれずもっと広い視野に立ちたかったと思っています。また、高校生活の意義を学習ばかりでなく、真の友人を得ることにも求めクラスやクラブ活動等で心の奥底深くまで語りあいました。

私達は自主的なあり方を望んでいたのですが、現実にはうまくいかないこともありました。例えば二年生の時の自治会役員の選挙です。ポストはなかなかうまりませんでした。それは四無主義的風潮に流されたり、勉強やクラブをする時間がなくなると考えていやがった人が多かったからでしょう。そのような態度を取ってはいけない事を私達は知っています。しかし、知っていながら行動に移せなかった事は本当に残念でした。力不足であったことも事実です。

このように力不足ながらも自主運営の可能性に挑戦したのが文化祭や体育大会でした。自主運営という大変な仕事にトライしようとする人が私達の中からでてきたのです。その準備のため放課後遅くまで居残り、中にはただ傍観していたようですが、多くは自主的に行動し、一応の成果が得られました。そこから具体的に考えたり行動したりすることによって、ただ傍観していただけの自己を見つめ直し、またお互いが協力することにより、連体感の大切さを知ってり、ここに答辞といたします。

大きく飛躍しました。

三年間に学び得た知識や、自主運営等による体験が、私達の血となり肉となり、またこれを将来への踏み台として、より自主性に富んだ人間となる事を心がけよき社会建設に向って喜怒哀楽の人生を歩んでいこうと思います。

在校生のみなさん、私達があなた方に残したものは本当に数少なかったと思います。

しかし皆さんが中心になって頭髪・制服など各種委員会を作る方向に進んだ事は一歩前進したことだと思います。

ただ残念な事は学年間のつながりが、クラブ活動に見られる程度で薄いものだったということです

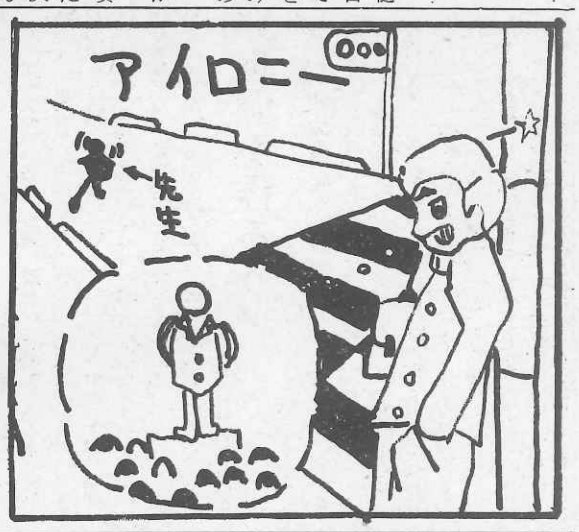
一つの学校で生活する以上、各学年間のつながりは大切なものです。新学年からは、学年のわくを越えてお互い協力し合い、よりよい学校にしていって下さる事をお願いします。

"さあ新しい人生の始まりです！"きのうまでいっしょにいた友ともお別れです。いつまでも、この三年間の思い出を胸にいだいて、すばらしい人生を築いていきましょう。

最後になりましたが、今日御列席の皆様方、この記念すべき卒業式に御力添下さいましてありがとうございました。そして三年間、私達を御指導下さいました校長先生をはじめ諸先生方、陰ながらいろいろと面倒みて下さいました皆様方、本当にありがとうございました。それぞれ五十周年をむかえた阿倍野高校の、今後の繁栄を祈

昭和48年2月24日

卒業生一同



一、二面において卒業というものを校長、担任、卒業生、在校生といろいろな立場から見てきた。

ともすれば見のがしやすい卒業の意義をあらゆる角度から見てみたいと思い今回の発行に至った。

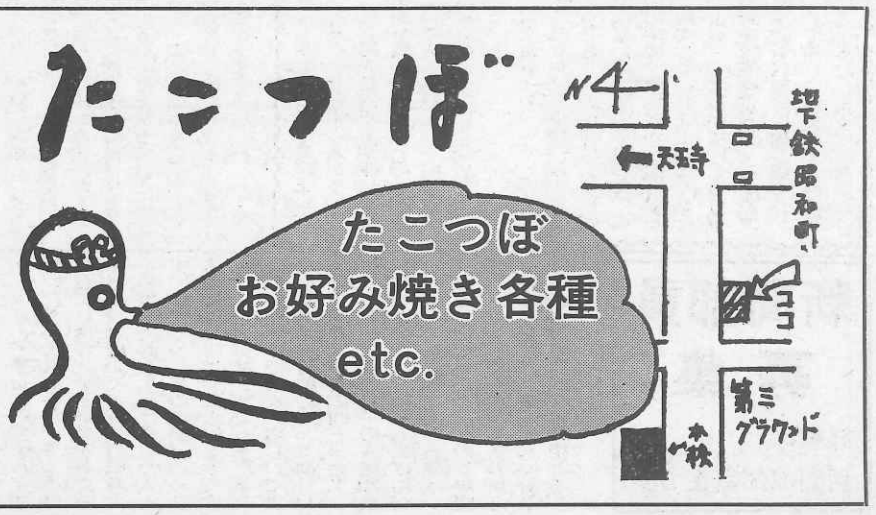
みなさんは今、何かを感じておられるに違いない。もう一度「卒業」というものを考え、そして大切に心のすみにしまっておいてもらいたい。

山は招く

あなたと大自然の中に

阿倍野山岳同志会

住所：東住吉区矢田部 府住 22―306　TEL (06) 698―4428



自治会選挙

スムーズに運ぶ しかし女子学代は？

去る一月二十七日、自治会役員選挙が行なわれた。会長に平沢保人、副会長が野田満、会計に古家隆文、書記には福田芽久美、二学代には江田清、一学代には田中享が信任当選となった。（敬称略）

役職	候補者氏名	信任票	不信任票	当・落
会長	平沢保人	415	227	当
副会長	野田満	435	208	当
会計	古家隆文	410	233	当
書記	福田芽久美	372	263	当
2学代（男）	江田清	268	35	当
1学代（男）	田中享	235	106	当

今回の自治会役員選挙の日程を追っていってみよう。

一月十六日　告示
　立候補受付開始
一月二十四日受付締切り
一月二十五日第一回立合演説会
一月二十七日第二回立合演説会
　同時投票↓開票
一月二十七日開票結果発表
二月五日　朝礼発表
二月十二日　一、二学代（女）再告示締め切りの延期
二月十六日一、二学代（女）再告示

以上の通りであった。

当選の状況は表にもあるようにやや全体的に不信任が多いように思える。今回の自治会選挙は選挙運動が活発であった。候補者の公約をくわしく説明したビラが登校時に配られたり、投票日の前に校内放送による演説会が行なわれたりした。自治会選挙という行事は日頃自治会に対して関心の薄い生徒の目をさます良い機会である。また選挙運動は何の面識もない候補者の意見を少しでも詳しく知るのに有益である。

公約であるが会長は表現の自由を主に、許可制、制服制の廃止。副会長は、さらにクラブ成立基準の明確化、会計は自治会への積極的な新風をまきおこしたいといっている。書記は制服制、許可制の審議、クラブ成立基準の明確化。二学代は意欲的なホームルームを作りみんなの意見を大いに執行部内にとり入れたいと、また、一学代は修学旅行での制服問題を取り上げまた、不正教育を粉砕したいと言っている。

この六名の中にあって変った存在が二学代の江田清である。一見革新的執行部の中にあって、演説時には堂々と皆の演説の逆を切ったりした。また、一学代女子の西本知佐子の欠場は意外であった。

われわれがこの意気かかんな執行部に注目をつける前に考えたい自治会役員としての自覚を持たなければならないのだ。それにはまずホームルームで積極的な発言を期待したい。

今度の執行部はかなり積極性のある人材がそろったので自治会に関心のうすい生徒を良い方向に引っぱっていってくれることを期待する。今回の選挙では2ポストがあいてしまった他、一クラスで不平行為があった。この失敗は注目すべきである。たった一人の軽率な一票投票は生徒の自治会へ対するぼうとくであり実に恥かしい行動であった。そしてそのいたずらが一人のいたずらにとどまらずクラス全員の投票が無効となったのである。今度このような不真面目な人が出れば阿倍高の自治会も終わりであると考えなければならない。

最後に言いたいのは、われわれがあくまで自治会に対して消極的な態度をとる限り、われわれの発展はのぞめないことだ。

この選挙を機会に生徒全員の発言のゆきわたる自治会になってもらいたい。

そうすることによって自治会が学校側からも生徒側からも信頼を得ることができるというものであろう。

あってはならない。

ということであり、判断を下す者の常識に任かすというものである考えてみれば、ずいぶんあいまいなものである。

以上が、今の許可制の現状であるが、ここで問題になるのが、先生の許可印がいるというところだ。なぜなら、先生の思っているようにもっていかれる可能性があるということだ。そしてもう一つ、成文化されていないということだ。

まず、成文化されていないということについてだが、これが、はっきり成文化され、なおかつ生徒手帳にも書かれるようになったならば、われわれは、ますます先生に押さえつけられているような感じを持つだろう。事実、押さえつけられてしまうようなことにもなりえない。しかし、許可制が全く廃止されてしまうと、自由を取り違えてしまう人も出るだろう。

そこで、考えてほしいのが許可制改正ということだ。これは、先生の許可印がいるという問題点を解決するのにも役立つのではないだろうか。

つまり、先生の許可印をなくすのである。先生は全くノータッチでいるのではないかということ。また、老人福祉によせる関心が多いということは、多少なりとも有吉佐和子の「恍惚の人」の影響があったように感じられる。それから「これからの社会は福祉という問題に対しどういう対策をすすめるべきだと思いますか」という質問に対し、政府への非難の声が、一部で見られた。

―スポット―
許可制改正を！

許可制廃止という声が高まっている今、許可制という問題についてもう一度考えてみよう。

まずその前に、許可制とはどういうふうになっているのかということを述べてみよう。

そこで、許可制とは〝慣習法〟であることを頭においていてほしい。それから、

一、個人・グループをとわずその主体を明確にする。
二、主体者は、本校教員を相談役または顧問としその指導をうける。
三、その後自治会執行部の許可印をうける。
四、その後自治会顧問の許可印をうける。

という四段階を踏むことが原則となっている。

そして、その許可の基準はどこにあるかというと、

一、事実に反してはならない。
二、個人を中傷してはならない。
三、暴力的、破壊的なものであってはならない。
四、退廃的なものであってはならない。
五、差別を助長するようなものである。

残念な結果
アンケートより

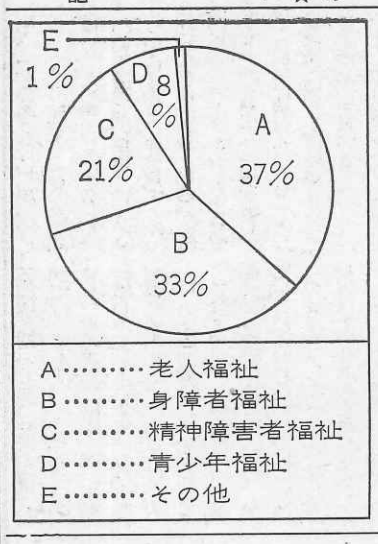
★社会福祉についてのアンケート結果★

▼福祉という問題について関心をもっていましたか。
・ハイ　65%
・イイエ　35%

▼どういう点についてですか。
・老人福祉　37%
・身障者福祉　32%
・精神障害者福祉　21%
・青少年福祉　8%
・その他　1%

▼これからの社会は福祉という問題に対しどういう対策をすすめるべきだと思いますか。
・国家予算を増す　51%
・福祉に関する家庭やマスコミ学校を通じての教育の徹底　22%
・法律で福祉を受けている人達の人権を確保する　25%
・その他　2%

以上が、アンケートの結果得た数字である。これから思うことは、福祉に対する関心が、割りと高かったけれども、まだまだ知識が足りないのではないかということ。



▼今までの阿倍高新聞についてのアンケート結果★

▼今までの阿倍高新聞を読んでいますか。
・全部読んでいる　19%
・ざっと目を通す　65%
・ほとんど読まない　11%
・全く読まない　5%

▼新聞を配られた時、まず読む記事はどれですか。
・スポット　21%
・150円でいける大阪　5%
・部説　7%
・アイロニー　5%
・新設校訪問　8%
・針の穴　30%
・詩　3%
・娯楽記事　15%
・編集後記　2%
・広告　4%

その他「その時その時によって違う」などという返事も返ってきた。これを見ると、全部読んでいる人が少なく、ほとんどがざっと目を通すだけというのは、われわれ新聞部部員としては大変残念なところである。また、部説を読まれる人が、少ないというのも残念でならない。

これらを総合して見ると、今までの阿倍校新聞が魅力的でなかったということがわかり、反省している次第です。また、それと同時にもっと強い姿勢で物事に取り組んで、より魅力的な新聞にしていこうと部員一同はりきっていますなお、回収率は75%でした。

☆　☆　☆

新聞部より

今号の阿倍高新聞はいかがですか？　楽しくご覧になっていただければ本望です。

なお、新聞部では皆さんの投稿をお待ちしております。また、ご意見、ご感想がありましたら、南舎二階の新聞部部室まで、どしどしおこし下さい。

新設校訪問
ユニークで新鮮な校風
東豊中高校

去る一月二十日、われわれ新聞部員は豊中千里中央にある東豊中高校を訪問した。正門のあたりはまだやぐらがあり工事がさかんに行なわれているようであった。本館校舎はすでに二年前から完成しているのだが、まだ中庭とか正門の工事などが残っているとのことだ。

東豊中高校（仮称新設第七一高校）は少し高い丘の上にあって大変見晴しがよく、当日は天気がよかったので大阪市内のビルが見られた。

われわれ新聞部が訪問した時は、あいにく土曜日だったために校舎内は全く人影が見られなかった。生徒会長との対面で奥の室に案内されたわれわれはそこでいろいろなことをお聞きした。

お話によるとさきほどの正門や庭の工事は今年の四月には完成するそうである。先生方は平均年令三〇才前後と聞いた。阿倍高とは大変な違いである。

現在生徒は三年生がおらず一二年生は各四百五十名ずついて地元千里ニュータウンや吹田、大阪市内からも通ってきているそうだ。その生徒一般の様子を聞くと「授業はなごやか（？）で消極的だ」ということである進学希望が多い割には勉強に努力しないとか食堂マナーの問題など阿倍高生にも言える問題がのぞいているようであった。また盗難も多いとのこと。

生徒会といえば執行部の動きは有志数人の手で活発に行なわれているそうだが、生徒の無関心のため運営がゆきづまっているのが現状のようである。

その生徒会内の問題は次のようなものである。

一、通学服問題
一、校内美化（保存）
一、生徒会規約作成

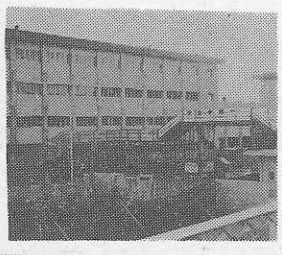
はじめの通学服であるがこの学校の制服は、男子は冬、紺のブレザーにグレーのズボン。夏は白のポロシャツにアイボリーの綿パンで女子は冬、紺の襟なしブレザーにグレーのジャンパースカート、夏は男子と同じアイボリーでヒップボーンのスカートとなっている。さすがに新設校らしいユニークさが見られる。が、まだ多少の問題があるそうだ。

校内美化というのは現在美しい校内をいつまでもきれいに保つということである。

生徒会規約作成がまだできていないという点については生徒会と学校側の当面の課題となっている。

その他、学校行事（文化祭、体育祭など）はまだまだ生徒会の手で運営できるほどの基礎ができていないそうだ。やはり開校二年目の不安定さをそこにも感じた。一応質問を終えたわれわれは校内を案内してもらった校舎内は静かでたいへんきれいであった。グランドではサッカークラブ員が一生懸命汗を流していた。

われわれは思った。この美しい環境の中で今よくいわれている退廃的なものすべてを克服して、若々しい校風をうち立ててほしと。「新設校訪問」の最終回に当って東豊中高校の仲間と交流がもてたことをうれしく思った。



サカエ堂
TEL(622)8364
BAKERY
本校第二グラウンド
43
郵便局
パン・ケーキ・菓子類

舎亭
ココ
庶民的な味，安くてうまい！
♡たこやき
♡ヤキソバ
♡おでん　etc.
第二グラウンド
N

進級に際して
2年は不安
1年は学園の中心に！

3年生が卒業していくと、次は在校生である我々1、2年生の進級です。1年生は2年に、2年生は3年へとそれぞれ進級するにあたっての不安と期待、希望や抱負思い出などを取りあげました。2年生は大学入試への分岐点となっている3年への進級、また1年生は学生生活の中心となる2年への進級etc。深く考えてみよう！

四月になり、桜の花がほころび始めるころ、我々一、二年生は進級するであろう。それぞれ何かを思いながら、新しい学年へと進むそこで進級するに当たって、学年別に現在の心境などを考えてみようと思う。

まず二年生から三年生へとなる人の中には、三年生になるのがとてもいやで、毎日勉強に明け暮れるのがぞっとする、とか心配であるなど、また三年生になり、勉強して国立の大学へ入ろうと思う、という頼もしい意見を持っている人もいるようである。もちろん、三年になると、B1（文科系コース）B2（理数科系コース）B3（家庭科系コース）に分かれるがこれに対しては、ある程度刺激になる、道をふさがれる気になる、別にやりたいことを思う存分やれて、クラブ活動にも積極的に取り組むことができる。また、それと共に責任の重い学年でもある。クラブでも新一年生から、先輩、先輩と呼ばれて頼りにされ、うれしいようなこわいような、また委員会などでも中心となり責任をもって活動しなければならない。

次に、それぞれの学年行事で、思い出に残っている事について、述べようと思う。まず、二年生にとっては、やはり修学旅行である運悪く雨天ばかり続いたが、雄大な阿蘇の姿、心に衝撃を受けた原爆資料など今も胸に残っていることだろう。一年生にとっては、夏の御岳登山だが、これは、全員が参加したわけではなく、合宿、研修旅行優先で、行きたくても行けない人がいた。この点に関しては新一年生の時には、何とか解決してほしいと思う。

また自治会の方では一ポストに一人の立候補者と非常に消極的であった。これも今年の我々阿倍高生にかせられた課題である。

このようにいろいろと反省してみればきりがない。そこでもう一度高校生活というものを冷静に考えてみたい。とにかく高校へは入ってしまえばところてん式に進級はたやすい。そしてあっさり卒業できる。何の苦しみもありはしない。こんなことでいいのであろうか。まわりの環境に身をまかせていればみんなといっしょに進んでいく。現代の学校教育の欠陥である。我々はここで何かを感じなければならない。ここで自分をかえり見る事が高校生活の中で自分を大切にすることなのである。

それにはどうすればいいだろうか？

それは日常を精いっぱいに生き自分にきびしく考えを持つことであろう。

進級するにあたっても一度自分の立場を考えてもらいたい。

古典芸術に接する
芸術鑑賞

文楽鑑賞

去る一月十日、一年生の国語科の授業として、例年のように文楽鑑賞が行なわれた。

鑑賞したのは、近松半二の作で「新版歌祭文・野崎村の段」であるこれは、おなじみのお染・久松の物語である。

最初は「文楽」という映画を見そして、人形のしくみについての説明を聞いた。人形の細やかな動作、表情などには、生き生きしたものが感じられた。

それから、いよいよ文楽鑑賞にはいった。

我々は、文楽というとなにか退屈なものだという観念をもっていたと思う。しかし、今回鑑賞してユーモア的なものもあり、なかなかおもしろいと感じた。

音楽鑑賞

一月十七日、一年生対象に、音楽鑑賞「高校生のためのオーケストラ教室」が行なわれた。

曲目は、モーツァルト「交響曲第40番」独唱で、歌劇「トスカ」から〝星はきらめき〟「カタリ・カタリ」の二曲、歌劇「聖母の宝石」間奏曲第一番、ルーマニア狂詩曲第一番であった。

演奏中、他校の生徒で、カスタネットをたたき、指揮者の山田一雄氏を怒らせ、演奏が一時中断するというハプニングが起きた。阿倍高生の聞く態度は、一応静かであったが、どれだけの人が、まじめに一生懸命聞いていたかは、疑問である。

能楽鑑賞

去る一月二十六日、大阪能楽会館にて二年生の能楽鑑賞会が開かれた。まず最初に観世流の八木康夫氏によって能に関する大まかな説明が行われた。続いて仕舞・狂言・能楽の順に演じられたがやはり人気があったのは狂言であった。「清水」といわれるものだが知っている人も多いだろう。続いて能「井筒」が行なわれたが、始めのうちは興味深々と見ていた人もあったが、終わりまじかには寝ている人が多かったようだ。内容は次のようである。一人の僧が吳谷寺へ行く途中、在原寺により紀の有常の息女の亡霊に出会い、在原業平を忍ぶという物語。古典芸術に接する機会の少ない私たちなので貴重な体験をしたようだ。

静かで整然とした所である。皆さんも一度行ってみませんか？休館は毎週月曜日で、陳列替えのため数日間休館することもあるまた観覧時間は午前十時―午後五時である。天王寺から五十円、観覧料は学生五十円、しめて百円也

自主的研究を望む
家庭クラブより

―投稿―（下原文）

最近、家庭クラブは、改めて、その活動面、組織面で多くの疑問を投げかけています。今、家庭クラブの本質と教育としての家庭科の意義をもう一度考える時が来たようです。その第一に上げられるのは、活動内容の明確化です。三学期に入ってから努めて時間をさいて、一年の各クラスに集まってもらってその理解と会員の自主制ました家庭クラブ総会の記事につきまして、家庭クラブ会長のただけの奉仕的組織と勧違いされ事の内容だけでは誤解を招きかねないということで、家庭クラブのPRもかねて、今までまりにも知られていなかった活動内容についての投稿がきました。（以下略）

一、会員の自主的研究
二、教育的分野（講習会等）
三、奉仕的分野（花などの校内美化、慰問等）
四、社交的分野（ティーパーティー送別会等）

左記に上げました四つの軸のうち、私は一、に比重を置きたいと思っています。教育的分野を促進する目的で呼びかけています企画研究会ですが、一番大事な自主的研究という課題を忘れていたようです。今一度自分の家庭生活をふりかえって下さい。家庭のあらゆる問題に置いて週二時間の復習時間ではとてもすべてを把握できません。そのままでは広く浅い知識に終わってしまいます。これらを基礎に追求するということは、大いに自主的活動の意義が存在してくるはずです。しかしそれらの活動を独りですすめていくのは、毎日毎日に追われる私たちには無理な要望です。したがって、私たち役員はその補助的立場としてアンケートにより、共通の問題をクローズアップし共に研究したいと願っているのです。今の家庭科の教科書を見て下さい。決して現、実情にマッチしたものではありません。私たちが実生活、実社会に入いる頃、どのように世の中が移り変っているか。そして又どのようにそれらに即応できる知識を身につければよいのかを見当し、先生の御指導を得て共に研究していきましょう。家庭クラブは、その先導機関として、進んでいくつもりです。そして皆さんの知恵と実行力を軸として、推進させるのです

家庭クラブ会長　蒲田千枝

編輯後記

最近書いたものとを比べてみるとこんなに成長したような気もしますしなんとか自分の感じたことを書けるようにもなりました。思春期にはいると、誰でも多かれ少なかれこんな時期があるらしいのですが私の場合それまでは文章を書くことはときらいなことはなかったので、自分でも不思議に思っているんです。でも詩を読むという事書くという事を知ったのは、私にとっては、大きなプラスになったと思うのです。まず詩を読むという事から、少しでも心の余裕というものができたということ。詩を書くという事からは、その時々にもやはり人気があったのは狂言であった。「清水」といわれるものだが知っている人も多いだろう。続いて能「井筒」が行なわれたが、始めのうちは興味深々と見ていた人もあったが、終わりまじかには寝ている人が多かったようだ。内容は次のようである。一人の僧が吳谷寺へ行く途中、在原寺により紀の有常の息女の亡霊に出会い、在原業平を忍ぶという物語。古典芸術に接する機会の少ない私たちなので貴重な体験をしたようだ。

のごとに対して自分はどういう考えで望んだのかという事が、はっきりとした文字で残り、あとで見てみると案外おもしろいということです。なんだかえらそうなことを書いてきましたけれど、もし暇があってお金がない時があったらひまつぶしにノートのすみっこなんかに走り書きしてみたらどうでしょうか。では最後に駄作を一つ

心の底までこごえてしまいそうになった時
あったかい紅茶をいれて
からだだけでもあたためてあげます
そうしないと
あんまりかわいそうすぎます
その紅茶の赤が
あの時のあの人のセーターの色にそっくりだって……
涙の光ってる瞳でほほえんでるなおさらかわいそうになります
気の強いあなただから
本当は声に出して泣きたいのにじっとこらえて外には見せないだからなおさら
かわいそう

☆　☆　☆

いよいよ三学期も終わろうとしています。卒業式に当りまして三年生の皆さんは就職や大学入試へと、もう高校生活をふり返る事さえできないあわただしさかとお察します。でもせめて特集「卒業」など見てもらい過去三年間の回想をして、それが現在の落ち着きをとりもどせたなら新聞部としてもうれしいです。

今号からは一年生だけで発行する事になり、未熟ながらもあつかましくまた、必死で作成に取り組んできました。校長先生をはじめ三年生関係の諸先生の御寄稿、アイロニー作成に御協力していただいた美術部、アンケートに御協力していただいた全生徒のみなさんに感謝をいたします。そのアンケート結果ですが読んでもらってないみなさんもあるようでした。学校新聞の本来の姿はやはり生徒の中に根ざした物であるべきです。我々は、これからも、みなさんの御協力をいただき、よりよい新聞を作りたいと考えております。

御食事・御飲物・めん類ならなんでも
安くてうまい
校内食堂　みのわ